

#### 会長の挨拶 45 理念的意味論 –その1–

ロータリーは、一業種一会員制の原則を主柱として選考せられた代表的職業人が、例会その他のロータリーの会合に出席することを通じて、親睦の中に各自の境地の交流を行い、そして日常性の中で、とかく自己を見失いがちな職業人に普遍的自我を自覚せしめる人生の哲学のことである。従って我々はその中に二つの異質の要素の存在を看取することが出来る。

一つはクラブ組織管理・運営に各ロータリアンが各自の自主性を失うことなく合一的に参加することである。この団体的行動をクラブ親睦又はクラブ奉仕と呼ぶのである。そして、その本質的諸要素を分析することがその目的であった。

今一つは、各ロータリアンが例会出席に拠って行った自らの自主的改善の結果を自己の力量に応じて地域社会における万般の生活行動を通じて、他の人々に及ぼすことである。これが奉仕の実践と一般に呼ばれている概念なのであって、この世界に関する限り、各ロータリアンは、あくまで個人として行動することが要求されているのである。その個々人にその行動の指針を与え、ロータリーの理想像を提示することによって、各ロータリアンの思想と行動決定の準則を簡潔に示そうとするものが、その理念なのである。

(小堀憲助著『ロータリー思想の構造』より引用)